

2021 年度実施概要

学校名

かまいしこども園

採択活動名

サケの学習を通してはぐくむ郷土愛と釜石の DNA の継承

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. サケのことについて関心を持とう	年長	
2.		
3.		

取り組みの概要

〈海について知る〉

海の色や海の味、海のおいしさ、海の生き物などについてクラスで話す。

6月11日(金)に「海洋環境保全教室」(釜石海上保安部による)で、海をきれいにすること、海の生き物がゴミを食べてしまうことを学ぶ。

〈サケについて知る〉

サケの解体や、サケを触ること、サケの一生について学習する。

4年もたって、生まれた川に帰ってくる話を聞く。

〈サケの解体・クッキング〉

雄と雌のサケを、目の前で、解体してもらおう。イクラや白子が出てくる様子を見たり、実際のサケの表面に触れたり、持ち上げてみたりした。

そのサケをさばき、クッキング(塩焼き、鮭コロッケ)してみんなで食べることで、命を「いただきます」とおいしくいただくことを学んだ。

〈サケを獲る現場と流通について学ぶ〉

事前に撮った定置網の様子や市場の様子の動画を見た。漁師の菅野氏、すなどり舎の齋藤氏の説明で、大型スクリーンで、迫力満点の動画を見た。

子どもたちは興味津々だった。また、質問や感想を述べた園児も多かった。

〈サケの稚魚の放流〉今年例年にないほどのサケの不漁により、稚魚の放流ができなかった。

活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)



「海洋環境保全教室」(釜石海上保安部による)



「サケの一生」について質問



本物のサケを持ってみたよ!



サケの解体・イクラが出てきた



サケのコロッケを作ったよ

サケ 大きい おいしい こども園で勉強会

釜石 かまいしこども園(藤原けいと園長、園児80人)は16日、釜石市天神町の同園でサケの勉強会を開いた。生態や自然環境の大切さを学び、調理にも挑戦した。

岩手大職員が釜石湾漁協の定置網で水揚げされたサケを解体。4、5歳児が「すごい」と声を上げながら真剣な表情で見入った。生態や育つ環境を学ぶと「餌は」「冬も生きるの」などと質問が相次いだ。5歳児はサケがたくさん入ったコロッケ作りに取り組み、たねをラップで包んできれいに丸めた。大和田悠斗ちゃん(6)は「楽しかった」と喜び、金野悠杏ちゃん(5)は「あんな大きいサケを見るのは初めて。お魚好き」と笑顔を見せた。



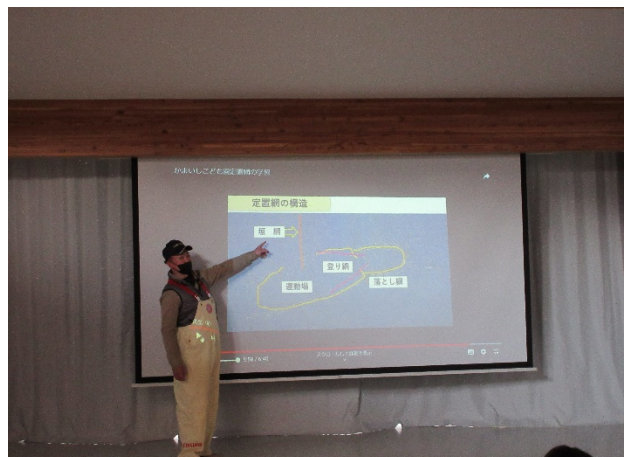
コロッケ作りに挑戦する園児

同園は本年度、海洋教育パイオニアスクールプログラム(笹川平和財団海洋政策研究所、日本財団主催)に採択され、サケの学習を継続している。

サケの学習・クッキングの様子が地元の新聞に掲載されました。



市場の様子動画をみて説明を聞きました。



保護者でもある漁師の菅野氏による定置網の学習